

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	書道
科目基礎情報						
科目番号	0134		科目区分		一般 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科	商船学科		対象学年		1	
開設期	通年		週時間数		前期:2 後期:2	
教科書/教材	書道 I (東京書籍)					
担当教員	世古口 祐子					
到達目標						
・表現と鑑賞の幅広い活動から書を愛好する心を育てる。 ・文化、伝統の理解を深める。 ・書写能力を育てて自己表現する能力を高める。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	様々な書に関心を持ち、表現・鑑賞ができ、意欲的に作品を仕上げて提出することができる。		様々な書に関心を持ち表現・鑑賞ができ、作品を仕上げて提出することができる。		様々な書に関心をもたず、表現・鑑賞ができない。清書を提出することができない。	
評価項目2	書の良さを感じ取り表現するため、授業前に準備を整え、積極的に練習し添削に来る。		書の良さを感じ取り表現するため、多様な書法の違いを理解し授業中問題なく練習ができる。		積極的に練習することができない。作品を提出することができない。	
評価項目3	臨書することで技能を習得し古典作品の特徴が理解できる。集字をし、作品を仕上げるができる。		古典作品の特徴を理解し、書くことができる。作品を仕上げることができる。		古典作品の特徴を理解せず集中して作品を仕上げない。添削した作品を捨てる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育目標 (A1) 豊かな教養						
教育方法等						
概要	【担当教員： 世古口 祐子（非常勤講師）】 ・「漢字の書」 さまざまな書風にふれることで、鑑賞、表現の能力を高め、創作に生かしていく。 ・「仮名の書」 色々な書風にふれ、美しさや表現方法を学び、創作に活かしていく。 ・「漢字仮名交じりの書」 身近な題材や自らの思い、感動を語句にし、実用的表現形式に創作する。					
授業の進め方・方法	実技で、作品、態度もしっかり取り組んでいるかを見る。					
注意点	「評価割合」のその他20パーセントについては、持ち物（半紙、墨汁、筆太し、硯、文鎮、下敷き）等の用意がされているかを評価する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	書へのいざない（1）		書に親しむ（身近な物から）	
		2週	書へのいざない（2）		用具、用材について知る（文房四宝）	
			書へのいざない（2）			
			書へのいざない（2）			
		3週	書へのいざない（3）		姿勢、執筆法を身につける	
		4週	書へのいざない（4）		調和よく書く	
		5週	書へのいざない（5）		書の美しさを知る	
		6週	漢字の書（1）		古典を学ぶ	
	7週	漢字の書（2）		孔子廟同		
	8週	漢字の書（3）		九成宮醴泉銘		
	2ndQ	9週	漢字の書（4）		雁塔聖教序	
		10週	漢字の書（5）		顔氏家廟碑	
		11週	漢字の書（6）		牛欄造像記	
		12週	漢字の書（7）		鄭義下碑	
		13週	行書（1）		集王聖教序	
		14週	行書（2）		蘭亭序	
15週		行書（3）		風信帖		
16週						
後期	3rdQ	1週	行書（4）		争坐位文稿	
		2週	隷書（1）		曹全碑	
		3週	隷書（2）		木簡	
		4週	篆刻（1）		印を作ろうNo1	
		5週	篆刻（2）		印を作ろうNo 2	
		6週	篆刻（3）		漢字の書の創作	
		7週	仮名（1）		基本用筆を学ぶ	
		8週	仮名（2）		平仮名を書く	
	4thQ	9週	仮名（3）		高野切	
		10週	漢字仮名交じり書（1）		書きたい言葉を古典から調べる	
		11週	漢字仮名交じり書（2）		書きたい言葉を古典から調べる	
		12週	硬筆（1）		生活の書	

		13週	硬筆（２）	生活の書			
		14週	硬筆（３）	生活の書			
		15週	硬筆（４）	生活の書			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	80	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	80	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0